

平成26年度(平成27年産)麦類作況試験生育状況(古川農試)[2月10日調査結果]

1. 供試品種および耕種概要

・供試品種

	早生	中生
六条大麦	シュンライ	ミノリムギ
小麦	あおばの恋	シラネコムギ ゆきちから

- ・播種期：10月20日
- ・播種量：0.9kg/a（ドリル播き，条間25cm）
- ・施肥：尿素燐加安777号  
(N : 0.8kg/a, P<sub>2</sub>O<sub>5</sub> : 0.8kg/a, K<sub>2</sub>O : 0.8kg/a)

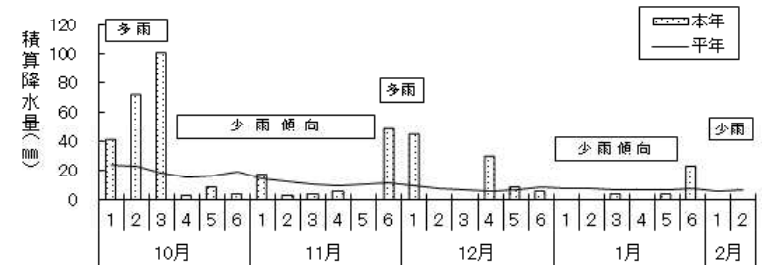
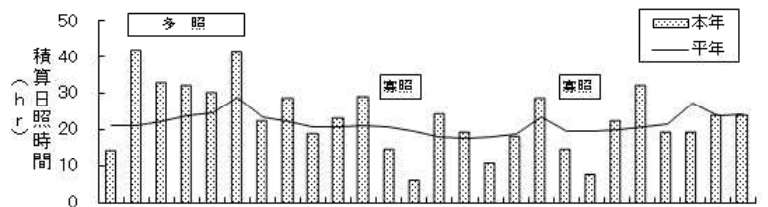
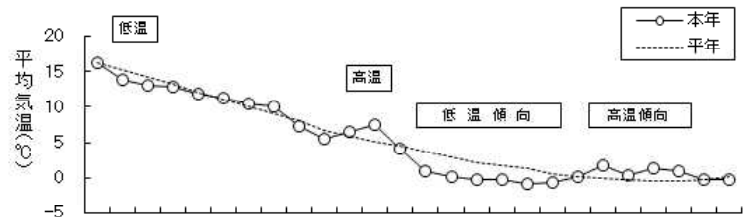
- ・土づくり肥料等：粒状苦土石灰 6kg/a
- ・排水対策：明渠，暗渠及び弾丸暗渠2.0m間隔
- ・ほ場条件：沖積埴壌土 転換初年目（前作水稲）

2. 気象概況[12月中旬～2月上旬] (表1，図1)

- ・平均気温は，12月中旬～1月上旬までは低温傾向で経過し，特に12月中下旬は平年差-2.6～-2.1℃と平年を大きく下回った。1月中～下旬は平年差+1.2～1.5℃の高温傾向となった。
- ・降水量は，12月中旬と1月下旬に平年比200%を超える多雨(雪)となった。1月上旬と2月上旬は平年比10%を下回る少雨となったが，残雪の影響もあり，圃場が乾燥する期間はなかった。
- ・日照時間は，期間を通じて概ね平年並であったが，1月上旬は平年比57%の寡少となった。

	平均気温 (°C)		積算降水量 (mm)		積算日照時間 (hr)	
	本年	平年差	本年	平年比	本年	平年比
12月中旬	-0.1	-2.6	30.5	240%	30.4	86%
12月下旬	-0.5	-2.1	16.5	112%	46.5	110%
1月上旬	-0.3	-0.7	1.0	7%	22.3	57%
1月中旬	1.0	1.2	5.5	42%	54.4	133%
1月下旬	1.1	1.5	29.0	210%	38.6	79%
2月上旬	-0.2	-0.1	1.0	8%	47.9	100%

注1) 平年差(比)はアメダス平年値との比較



3. 生育概況 (表2)

1) 2月10日現在の生育状況

- ・草丈は平年並～やや小さく，茎数は大麥では平年並，小麦では平年よりやや多い。
- ・葉数は平年並～やや多い。
- ・大麥，小麦ともに越冬前の目標生育量を上回っており，順調に生育している。
- ・現時点では雪や寒さによる目立った障害は認められない。

2) 幼穂分化状況

- ・大麥の幼穂長は0.8～0.9mm前後であり，幼穂形成始期には達していない。
- ・シュンライの幼穂形成始期は平年(2月10日)に比べて遅れている。
- ・小麦の幼穂長は概ね平年並であり，早生のあおばの恋では0.9mm程度となっている。

図1 半月別気象経過(大崎市古川)

表2 麦類生育状況(2月10日現在)

品種	草丈			茎数			葉数		
	本年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (本/m <sup>2</sup> )	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (枚)	前年差 (枚)	平年差 (枚)
シュンライ	9.6	134	92	780	173	103	5.4	1.7	0.5
ミノムギ	9.9	123	83	741	163	94	4.8	1.0	-0.2
あおばの恋	13.4	141	-	725	349	-	4.9	1.3	-
シラネコムギ	12.3	127	101	840	227	121	5.5	1.2	0.4
ゆきちから	10.8	126	93	809	372	126	5.1	1.4	0.1

品種	幼穂長			幼穂分化 程度	幼穂形成始期 (月/日)	
	本年 (mm)	前年差 (mm)	平年差 (mm)		本年	平年
	シュンライ	0.89	0.29		-0.14	VII後
ミノムギ	0.75	0.18	-0.13	VII前～後	-	2/20
あおばの恋	0.88	0.55	0.04	VII前～後	-	3/3
シラネコムギ	0.38	0.09	0.07	V～VI	-	3/20
ゆきちから	0.38	0.12	0.05	V	-	3/23

※越冬前目標生育量:葉齢4～5枚,  
分けつ1～2本, 茎数400～500本/m<sup>2</sup>

- 注1) 平年比(差)は過去5か年(「あおばの恋」は平成22年度から供試のため過去4か年)の平均値との比較。  
 2) 幼穂形成始期の平年値は過去5か年(「あおばの恋」は平成22年度から供試のため過去4か年)の平均値。  
 3) 幼穂形成始期:幼穂長1mmに達した日。

[参考]麦類の幼穂分化程度と幼穂長(mm)

品種	苞分化期	小穂分化期				穎花分化期	
	V	VI	VII	VIII	IX	X	
小麦(シラネコムギ等)	0.5	0.5～0.6	0.6～1.0	1.0～1.2	1.2～4.0	4.0～5.0	
大麦(シュンライ等)	0.5	0.5～0.7	0.7～1.5	1.5～2.0	2.0～4.0	4.0～5.0	

注) 幼穂分化程度はI～Xの10期に区分されるが、V期以前は外部形態による判定が困難であるため、省略した。  
 また、厳密にはVII期は前・後期に、IX期は前・中・後期に区分される。

## 平成26年度(平成27年産)麦類生育調査ほ生育状況[2月10日調査結果]

表3 耕種概要

担当普及 センター	品種名	実施場所	畑転換 年数	排水対策 (明渠、暗渠等)	播種期 (月/日)	播種量 (kg/a)	播種様式	条間 (cm)
大河原	シュンライ	大河原町	15	暗渠	11/1	1.0	ドリル播き	29.6
	ミノムギ	大河原町	15	暗渠	11/1	1.0	ドリル播き	30.5
仙台	シュンライ	大和町	13	明渠、暗渠、弾丸暗渠	11/8	確認中	ドリル播き	27.0
大崎	シラネコムギ	大崎市古川	1	明渠、暗渠	10/20	1.0	ドリル播き	12.5
美里	シラネコムギ	大崎市鹿島台	1	明渠、弾丸暗渠	10/29	1.3～1.4	ドリル播き	23.8
	ゆきちから	涌谷町	1	明渠、弾丸暗渠	11/9	確認中	ドリル播き	19.8
登米	あおばの恋	登米市豊里町	10	暗渠	11/11	1.4	ドリル播き	20.3
石巻	シュンライ	石巻市桃生町	1	明渠、暗渠、弾丸暗渠	10/19	1.0	ドリル播き	30.0
	ミノムギ	石巻市桃生町	1	明渠、暗渠、弾丸暗渠	10/20	1.0	ドリル播き	30.0
	シラネコムギ	石巻市小船越	10年以上	なし	10/19	0.8	ドリル播き	22.5

表4 生育状況(2月10日現在)

担当普及 センター	品種名	実施場所	播種期 (月/日)	出芽 良否	草丈			茎数			幼穂長 (mm)
					本年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (本/m <sup>2</sup> )	前年比 (%)	平年比 (%)	
大河原	シュンライ	大河原町	11/1	良	6.7	96	84	286	154	70	-
	ミノリムギ	大河原町	11/1	良	5.7	97	73	236	97	56	-
仙台	シュンライ	大和町	11/8	良	7.7	68	-	139	20	-	0.5
大崎	シラネコムギ	大崎市古川	10/20	良	5.7	66	50	536	432	77	-
美里	シラネコムギ	大崎市鹿島台	10/29	良	10.4	141	128	625	183	121	-
	ゆきちから	涌谷町	11/9	良	8.6	139	102	282	92	94	-
登米	あおばの恋	登米市豊里町	11/11	良	8.1	156	111	241	197	95	0.1
石巻	シュンライ	石巻市桃生町	10/19	良	11.7	131	110	417	172	74	1.0
	ミノリムギ	石巻市桃生町	10/20	良	10.4	109	98	413	168	71	0.8
	シラネコムギ	石巻市小船越	10/19	良	11.2	85	75	773	70	65	0.3

注1) 出芽良否は達観で判断(良, 中, 不良の3段階を基本とする)。

2) 平年比は過去5か年の平均値との比較。

3) 仙台「シュンライ」は平成25年度から調査地点が変更となったため、平年値はない。

## 担当普及センターのコメント

### 1) 大河原

- ・12月からの低温により、草丈、茎数ともに平年値を下回っている。

### 2) 仙台

- ・現在第4葉抽出～展開期。融雪していたが、ほ場大半で雪害や寒害による葉の黄化が見られた。
- ・茎数は停滞気味であり、昨年と比べて生育量は下回り、生育ステージも遅れている。
- ・スズメノテッポウの「微」程度の発生が確認された。

### 3) 大崎

- ・茎数は越冬前の目標400～500本/m<sup>2</sup>を確保しているが、積雪が少なかったため、白鳥等による葉身の食害が著しい。
- ・雪解け水の停滞による湿害は少ない。

### 4) 美里

- ・2月10日の調査時は、両品種のほ場とも積雪はほとんど溶けていたが、ほ場は凍っていた。
- ・10月下旬播種のシラネコムギは、前回12月の調査時から茎数が約2倍に増加し、平年を上回った。
- ・11月上旬播種のゆきちからは、前回から茎数がほとんど増加しておらず、平年を下回った。

### 5) 登米

- ・調査時は第3葉抽出中であった。
- ・前回12月の調査に比べ、茎数の増加は見られなかったが、平年並の茎数である。
- ・ほ場全体の生育は揃っている。
- ・白鳥等の食害は見られない。

### 6) 石巻

- ・大麦では、砕土率が低く、12月の気温が低かったため年内の分けつ発生が緩慢で、茎数は400本/m<sup>2</sup>超程度と平年を下回っている。しかし、現在小さな分けつが多数見られ、茎数は回復傾向にあると思われる。
- ・大麦の草丈は平年を上回っており、幼穂長は平年並である。また、葉色の低下は見られない。
- ・シラネコムギでは、例年より播種が遅いため、茎数、草丈、幼穂長ともに平年を下回っている。
- ・シラネコムギの幼穂長は1月15日時点とほとんど変わっていない。